

# 1. はじめに

## 1. 国立中央青少年交流の家のあらまし

設立の経緯—世界平和と日本文化の発展を願って—

「国立中央青少年交流の家」（当時は、「国立中央青年の家」）は、皇太子殿下（現上皇陛下）御成婚記念事業の一つとして、1959年（昭和34年）に開設された我が国最初の国立青少年教育施設を前身としています。

## 2. 教育的な意義

### （1）生活・交流体験を通じた社会性の伸長

交流の家では、利用者が共同宿泊生活を通じて「規律」「協同」「友愛」「奉仕」の大切さを体験的に理解することを目指しています。

そのために、「標準生活時間に沿った生活や活動」、「朝のつどいと夕べのつどいへの参加」、「自分たち自身で行う清掃や整理整頓」等を意図的に取り入れ、その実施を支援しています。

- 「標準生活時間」に沿った生活や活動
- 他団体との共同生活（食事や入浴）
- 「朝のつどい」と「夕べのつどい」への参加
- 清掃、整理整頓、片付け等の自発的な実施



- 早寝早起きなどの基本的な生活習慣の体得
- 他者理解や他団体への心配り
- 他団体との交流やコミュニケーションの推進
- 自律、感謝、ルールへの遵守

### （2）多様な体験活動を通じた実践的な力の育成

多様な体験活動や交流活動、研修活動を通じて、社会の中で役立つ実践的な力を身につけ、他者や社会との関わり等を学ぶことができます。

## 3. 国立中央青少年交流の家について

国立中央青少年交流の家は、文部科学省所管の独立行政法人国立青少年教育振興機構（平成18年4月発足）が運営する青少年教育施設の一つです。

### ■ 教育目標（教育理念）

「体験活動を通じた青少年の自立」

様々な体験活動の機会を提供し、青少年一人ひとりの成長・発達を促し、その自律と社会性の涵養を目指します。

### ■ 運営方針

国立青少年教育施設としての役割と、中央青年の家として創設された伝統を踏まえ、時代の要請に応じた新たな教育事業を創出して、その成果を広く発信します。

また、私たちは、国立中央青少年交流の家を利用されるすべての団体が、「利用してよかった」と思える「満足」を提供することを目指します。

### ■ 行動指針

私たちは、一人ひとりが教育施設としての役割を自覚しつつ、

（1）相手の立場に立って「親切」に「誠意」を持って対応します。

（2）「安全」な施設・設備、教育環境を整えます。

（3）魅力的で「感動」のあるプログラムの提供を目指します。また、自己研鑽に努め、互いに学び合うことを通して、より質の高い教育活動の展開に努めます。

### ■ 所章



当施設を象徴する「富士山・家・若人」をイメージしてデザインされたものです。